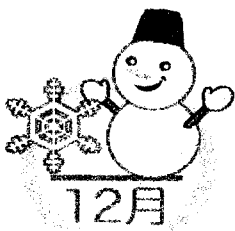


令和2年度 静岡市立宮竹小学校 学校だより

宮竹っ子

12月号 令和2年11月24日

行事の大切さ



11月に入り、朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。子どもたちの登校する服装からも、冬になってきたことを感じます。早いもので、今年もあと1ヶ月を残す時期になりました。しかし、今年は例年と違い、コロナ対応を進めていく中で、初めて迎える年末になります。各家庭でも、一人一人が感染しないよう意識をしっかりとち、注意をして生活していただければと思います。よろしくお願ひします。

第4ステージは、学校としてチャレンジのステージになるとお伝えした大きな1つ目の行事である4、5年生の朝霧自然体験学習を10/25(日)、26(月)に実施しました。今年度は、施設の空き状況を確認して検討した結果、2学年を同じ日時、場所で実施することにしました。内容においては、それぞれの学年が計画した活動をしました。2日間とも天候に恵まれ、4年生は、1日目に福祉の学習でミルクランドへ行き、酪農体験、盲導犬の学習をしました。子どもたちは、動物と触れ合い活動する学習に夢中になっていました。学校では見られない姿でした。5年生はすぐ宿舎に入り、ウォークラリー、野外炊飯、夜のつどいと活動をしました。特に野外炊飯で必死になって火をおこし、お米を炊いた活動、夜のつどいでは宮竹では観られない満天の星に感動していました。2日目、4年生はウォークラリー、魚釣りをやり、5年生は酪農体験をしました。子どもたちは、学校では味わうことのできない体験学習を2日間し、友達と寝食を共にしたことにより一回りも二回りも大きくなり、全員が無事学校に戻ってきました。学校に戻り、現在の生活状況を見ても朝霧に行く前と後では大きく変わり、たくましくなりました。学校の教室では学べない価値のある体験、行事が、子どもたちにとってとても大切なものであることを改めて教えられました。



続いて大きなチャレンジの2つ目になる6年生の修学旅行を11/17(火)、18(水)に実施しました。この2日間も天候に恵まれ、体調を崩す子も一人もいないという素晴らしい修学旅行になりました。特に、この修学旅行は4月初から、6年生の先生方とも何度も話をして実施することができた行事です。4月、5月の休校により、6年生の子どもたちには最高学年という自覚をもたせることが難しいスタートでした。

そんな中、6年生の先生方が子どもたちに話しかけ、常に最高学年を意識する指導をしてきました。そのため、毎朝、学校美化のために率先して活動してくれています。7月に実施した交通安全リーダーと語る会においても、自分たちの現状を自治会の方に伝え、連携させていただいたことにより、今でも地域の方たちと繋がりをもつことができている。このような状況下のため、例年のように東京に行くことはできませんでしたが、6年生の先生方の思い、子どもたちの思いを何とか実現しようと実施した修学旅行は価値のある行事になったと思います。旅行中、宮竹小の最高学年にふさわしい行動をたくさん観ることができました。

このようなチャレンジを御理解いただき、支えてくださっている保護者の皆様、地域の皆様には大変感謝いたします。12/4(金)には、3つ目の大きなチャレンジであるスポーツデー(運動会)を実施する方向で考えています。さらなる御協力いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

校長 山崎 元靖